

2019年度  
[2019年4月1日～2020年3月31日]

## 事業報告



# 目 次

2019年度事業報告（総括）	1
・ 科学技術振興に関する活動の概要	2
- 1．研究助成	2
1．募集・応募・選出状況	2
2．助成件数の推移	3
3．第35回(2019年度)マツダ研究助成一覧	4
4．第35回(2019年度)マツダ研究助成奨励賞一覧	5
- 2．事業助成	6
1．募集・応募・選出状況	6
2．助成件数の推移	7
3．第35回(2019年度)マツダ事業助成一覧	8
- 3．科学わくわくプロジェクト	9
・ 青少年健全育成に関する活動の概要	11
1．研究助成	11
1．募集・応募・選出状況	11
2．助成件数の推移	13
3．第35回(2019年度)マツダ研究助成一覧	14
2．市民活動支援	15
1．募集・応募・選出状況	15
2．支援件数の推移	16
3．第35回(2019年度)マツダ市民活動支援一覧	17
3．感動塾・みちくさ	18
4．スタートラインプロジェクト	19
5．若者×ツナグバ	20
6．第39回講演会	21
7．大学寄付講義の実施概要	22
・ 管理事項の概要	23
- 1．役員等に関する事項	23
1．2020年3月31日現在の役員・評議員の名簿	23
2．役員等の異動状況	23
- 2．職員に関する事項	24
- 3．理事会・評議員会等、主な活動事項	24
- 4．所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項	25
- 5．登記に関する事項	25
- 6．附属明細書	25



## 2019年度 事業報告（総括）

当財団の設立目的である「科学技術の振興」、「青少年の健全育成」について次の活動を行いました。この活動のためマツダ株式会社から寄付を受け、低金利による運用収益低下の影響を最小限に抑えるとともに、最大限の社会貢献に資するべく創意工夫をしました。

まず、科学技術振興分野では、先進性・独創性のある研究に対して助成を行いました。特に、「若手研究者」、「萌芽的研究」、「循環・省資源への寄与」に継続して注力しました。また、青少年の科学離れへの対応として、小中高校生を対象に科学にわくわくする機会を提供し「科学するところ」を養うことを目指した事業「科学わくわくプロジェクト」を、広島大学等と連携して、実施しました。

次に、青少年健全育成分野では、市民活動との連携強化を図り、市民活動の活性化に寄与する実践的な研究に絞って助成を行いました。市民活動支援は、広島・山口両県における青少年健全育成のための地域に密着した活動に助成しました。なお、新たな試みとして研究と実践の融合、広島と山口の市民活動団体の交流を目的として研究助成と市民活動支援の合同成果報告会を開催しました。

「感動塾・みちくさ」は、(公財)広島市文化財団と共同開催しました。NPO法人ピピオ子どもセンターと連携して被虐待児の自立を支援する「スタートラインプロジェクト」事業は、支援活動をさらに充実させました。また、“若者自立支援”をテーマとした「若者×ツナグバ」事業を推進しました。講演会では、齋藤 孝氏を講師としてお招きし、「人間関係を作るコミュニケーション力」と題してお話をいただきました。大学講義では、広島女学院大学にて単位互換「ボランティア論」講義を行いました。

### 科学技術振興関係

#### 研究助成

機械、電子・情報、化学系材料、物理系材料の4分野を対象に31件3,100万円の助成を行いました。さらに、このうち特に優れた研究4件に「マツダ研究助成奨励賞」として副賞50万円、計200万円を追加助成しました。(国内/公募)

#### 事業助成

研究者等による小中高の生徒を対象とした「科学体験」事業に15件200万円の助成を行いました。(中国地方/公募)

#### 科学わくわくプロジェクト

教科書にとらわれない高度な科学体験により、小中高生の「科学するところ」を養うことを目指す「科学わくわくプロジェクト」を、広島大学等と連携して実施しました。(連携事業/参加者公募)

### 青少年健全育成関係

#### 研究助成

青少年健全育成に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究6件に計400万円の助成をしました。(国内/公募)

#### 市民活動支援

青少年の心豊かな成長の一助となる地域に密着した民間の非営利活動32件に計800万円の支援をしました。(広島県・山口県/公募)

#### 感動塾・みちくさ

子どもたちが自然に触れ、体験や実験などを通して、科学に対する興味を深め、自分たちで創意工夫することにより科学を学ぶ心を養うことを目的に、(公財)広島市文化財団との共催で実施しました。(連携事業/参加者公募)

#### スタートラインプロジェクト

被虐待児等の自立を支援することを目的に、NPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で、被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発、活動基盤の充実を支援する事業を実施しました。(連携事業/公募)

#### 若者×ツナグバ

若者が希望を獲得するための活動支援を、市民活動団体等との緩やかなネットワーク型の連携により実施しました。

#### 講演会の開催

当財団の活動主旨を広く知っていただく活動の一つとして、齋藤 孝氏を講師に迎え実施しました。

#### 大学寄付講義

広島女学院大学にて、単位互換「ボランティア活動」の講義を行いました。

事業の概要を以下に記します。

## ．科学技術振興に関する活動の概要

### - 1 . 研究助成

#### 1 . 募集・応募・選出状況

##### (1) 募集

次の内容で募集を行いました。

##### (a) 助成趣旨

天然の資源に恵まれない我が国においては、科学技術の育成・振興が重要な課題です。このために、主として科学技術に関する学術研究に対して助成し、振興をはかることにより、調和のとれた科学技術の向上をめざし、文化への貢献ならびに広く社会の発展に寄与することを目的としています。

##### (b) 助成対象

現在ならびに将来にわたって解決が求められている科学技術に関する基礎研究および応用研究、特に、機械、電子・情報、化学系材料、物理系材料の4分野に係わる先進的・独創的な研究。

(c) 募集方法	公募
(d) 助成金総額	3,100万円
(e) 助成件数	31件 (1件あたり100万円)
(f) 助成期間	1年または2年
(g) 募集期間	2019年4月15日～5月31日

##### (h) マツダ研究助成奨励賞

マツダ研究助成対象の中から若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした研究に対して授与する。

副賞(追加助成金)	50万円/件
追加助成金総額・件数	200万円、4件

##### (2) 応募状況

合計292件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別	・ 中部以東	170件 (58%)
	・ 関西以西	122件 (42%)
(b) 分野別	・ 機械	62件 (21%)
	・ 電子・情報	66件 (23%)
	・ 化学系材料	77件 (26%)
	・ 物理系材料	87件 (30%)
(c) 若手研究者(35才以下)		99件 (34%)

##### (3) 助成対象者の選出

科学技術振興関係選考委員会(8月2日、3日開催)において慎重に審査された結果、助成候補として31件、研究助成奨励賞候補として4件が選出され、第40回理事会において正式に承認決定されました。

##### (4) 助成贈呈書の贈呈

2019年10～11月に申請代表者を訪問し、贈呈書を贈りました。

## 2. 助成件数の推移 - 科学技術振興関係 -

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第35回) 2019年度	2018年度	2017年度
応募件数(件)	292	406	404
助成件数(件)	31	31	31
助成比率(%)	10.6	7.6	7.7
助成金総額(万円)	3,300	3,300	3,300

(地域別状況)

地域	2019年度		2018年度		2017年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
中部以東(件)	170	16	235	17	207	16
近畿(件)	63	7	72	6	80	6
中国・四国(件)	39	6	51	4	62	4
九州・沖縄(件)	20	2	48	4	55	5
合計(件)	292	31	406	31	404	31

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数

(分野別状況)

分野	2019年度		2018年度		2017年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
機械(件)	62	7(4)	88	7(3)	104	8(5)
電子・情報(件)	66	7(3)	86	7(3)	100	7(2)
化学系材料(件)	77	8(3)	124	9(6)	131	10(8)
物理系材料(件)	87	9(5)	108	8(8)	118	8(6)
合計(件)	292	31(15)	406	31(20)	453	33(21)

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数、分類は審査時  
( )内の数値は循環・省資源に寄与する研究で、内数

3. 第35回(2019年度)マツダ研究助成一覧  
- 科学技術振興関係 -

助成対象研究の概要は、以下の通りです

印付きは循環・省資源に係わる研究

S印付きは研究助成奨励賞受賞

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
<b>【機械】</b>		
高精度かつ短時間整定の位置決めを可能とする3D造形軸継手形状の開発	田中 淑晴 豊田工業高等専門学校 准教授	100
円周方向に沿ったハニカム孔構造を採用し高剛性かつ高減衰を両立させた軸継手を提案し、位置決め装置に適用することによって、位置決め精度0.1μm以内の高精度かつ整定時間10ms以内の短時間位置決めの実現を目的とする。提案する軸継手は、回転のねじり方向に対して断面二次モーメントが大きくなり高い剛性を備えるとともに、長手方向においてはハニカム形状の孔によって肉厚が薄くなり高い減衰能を実現することができる。		
Mg 製医療用埋植素材開発に向けた液体高速噴射による有機-無機複合皮膜形成技術	中村 嘉恵 日本大学 理工学部助教	S 150
Mg(マグネシウム)は医療用埋植材の基材として注目されているが、体内での急速な分解を防ぐための耐食性と、自由に変形できる柔軟性が求められる。これには、Mg 基材表面に有機-無機複合皮膜を形成することが有効である。これを実現するために、水蒸気と Mg の化学反応により、耐食性の高い Mg(OH)2(水酸化マグネシウム)皮膜が Mg 基材表面に形成されることに着目した。本研究では、水蒸気に変えて、水と生分解性ポリマーの混合液を微粒化し、Mg 基材表面に高速噴射することによって、有機-無機複合皮膜を形成する。		
多角的光学計測による次世代超薄燃焼ガソリンエンジン壁面近傍の熱流動現象及び成層水噴射効果の解明	長澤 剛 東京工業大学 工学院助教	100
空気過剰率が2を超える超薄燃焼ガソリンエンジンにおいて、ピストン頂面に水を噴射して成層化させることにより冷却損失低減とノック抑制を同時に実現し、非常に高い熱効率が得られている。本研究ではこの大幅な効率向上の機構を、急速圧縮膨張装置を用いた壁面境界層の温度場・速度場・水蒸気分布及び壁面熱流束の測定により明らかにする。また単気筒エンジンをを用いて液水分布可視化と筒内圧・壁面熱流束の同時計測を行う。そしてこれらの情報を基に、成層水噴射による大幅な効率向上効果の本質的な解明を目指す。		
均一な力で切断できるはさみによる力センシングの検討	野田 幸矢 福島工業高等専門学校 助教	S 100
はさみで力センシングを行う際、力のモーメントの影響により切断位置により入力側に要する力が異なる。このため、客観的に力を計測することが困難であった。申請者はこれまで、はさみの刃の位置に依存せず切断するときの力が均一になるはさみを開発してきた。本研究では、このはさみが力センシングデバイスに適用できるか検討する。具体的には、(1)速度と力の関係性、(2)対象物の厚さと力の誤差の影響、(3)切断する物質の種類別の3項目について調査する。		
高精度な非接触流体制御を目指した音場浮遊液滴の微粒化機構の解明	長谷川 浩司 工学院大学 工学部准教授	100
本研究は、浮遊させた流体試料に生じる微粒化挙動の発生メカニズムを解明し、非接触・無容器での試料操作を実現するための「非接触流体マニピュレーション技術」を構築することを目的とする。本申請で目指す技術は、異なる流体を混合・攪拌・濃縮・反応・相分離するとともに蒸発・乾燥などの相変化といった、一連の熱流体プロセスの制御技術の創出が期待される。これにより、従来法と比較して廃液を極小化させることで環境負荷などを大幅に低減させるような、革新的なマイクロフルイディクス技術の開発を目指す。		
縦渦により駆動する円柱翼水平軸風車に関する基礎研究	野村 高広 呉工業高等専門学校 教授	100
2016年に長岡技術科学大学の高橋勉教授により発案された縦渦により駆動する円柱翼風車に着目し、風車・水車・タービンなどへの技術展開に資するため、基本原理を解明する。まず、実験用風車の新型機を製作する。風車の性能を評価する上で必要となるパワー係数/周速比の特性曲線を得るため、風車の各種形状因子に係るパワー性能を風洞実験により調査する。さらに、本風車のパワー性能を向上させる観点から縦渦の制御、および、実用レベルのパワー係数を実現するための最適条件を解明する。		
MEMSセンサによるディーゼル噴霧火炎の衝突壁面熱流束の離散的な計測	出島 一仁 滋賀県立大学 工学部講師	100
ディーゼル噴霧火炎の壁面伝熱特性を調べるため、壁面熱流束の時空間分布を定量的に測定する技術を開発する。本研究では、MEMS (Micro-Electro-Mechanical Systems)と呼ばれる微細加工技術を用い、サブミリメートルオーダーでの多点同時測定が可能な薄膜測温抵抗体を製作し、ディーゼル噴霧火炎の乱流スケールと同等の空間分解能での測定を行う。それにより、隣接点で得られる熱流束変動から相関解析によって流動に関する情報を抽出し、流動が伝熱に与える影響を調べる。		



研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
<b>【電子・情報】</b>		
キャリア高調波を界磁エネルギー源とする共振結合形モータとその最適制御手法の創生	青山 真大 静岡大学 工学部助教	100
本研究はインバータ駆動のモータで制御上、不可避に発生するキャリア高調波をトルク発生の界磁エネルギー源として活用する新原理とその最適制御手法の創生に関する研究である。キャリア周波数を電磁共振周波数とする共振回路をロータ上に形成するワイヤレス給電式巻線界磁形モータを特長とし、各駆動点でシステム効率が最大になるようなキャリア周波数をオートチューニングする最適制御手法を創生する。原理検証機を試作して実験的に原理実証と本モータの優位性を明らかにする。		
大型車両を追従する運転者の車線変更意図推定モデルの構築	Woo Hanwool 秋田県立大学 システム科学技術学部助教	100
交通事故ゼロの実現に向けて、周辺交通参加者の意図を推定し潜在的なリスクまでも対応可能な技術が求められる。バスやトラック等の大型車両の後ろを追従する運転者は、視野が防がれることやより速く走るために追い越しを試みる傾向がある。即ち、先行車両の車種は、追従運転者の内部状態に影響し、運転意図の変化を起こすと考えられる。本研究では、先行車両の車種が与える影響を解明し、挙動から追従運転者の運転意図を推定することが可能な手法の構築に取り組む。		
橋梁の点検業務支援を目的としたUAVの打音解析及びAIによる空隙検出の基礎研究	宮崎 亮一 徳山工業高等専門学校 助教	100
本研究では機動性に優れた無人航空機 (Unmanned Aerial Vehicle: UAV) を用いた橋梁等のコンクリート構造物の遠隔打音検査に着目し、UAVに搭載した打撃装置で橋梁によって得られる「打撃音を人工知能で解析」することで、橋梁の空隙箇所を自動的に検出するシステムの開発を目指す。本研究の実現によって「点検者の安全性」、「定期点検に要するコストの大幅な削減」、「専門家を必要としない異常検知の自動化」に貢献できると確信している。		
高出力・小型モータ設計・開発のための鉄心材料の応力ベクトル磁気特性の解明	斐 祐一郎 鹿児島大学 大学院理工学研究科准教授	100
本研究では、小型・高出力モータに開発へ向けて鉄心材料の活用技術の開発及び機器設計を目指し、実機に近い応力や磁束条件下における鉄心材料の磁気現象解明に取り組む。研究代表者は、これまでに応力ベクトル磁気特性評価法と呼ばれる独自評価法を提案してきたが、従来の評価システムは応力や磁束密度レベルが低く、小型・高出力モータの設計・開発の知見を得るには不十分であった。そこで、応力印加機構、励磁部分、センサを見直し、新たに設計・作製することによって、高応力及び高磁束密度条件下における鉄心材料の磁気現象の解明並びに磁気特性データベースを構築する。		
マルチモーダルセンサ情報の相補性を活用可能なデータドリブン特徴抽出法の開発	田中 大介 新居浜工業高等専門学校 助教	100
本研究ではロボットによる物体認識問題を考える。ロボットに搭載されたマルチモーダルセンサ(視覚・触覚・聴覚など)を用いて認識を達成するためには、得られる膨大な情報の中から必要な情報だけを抽出することが必要である。しかし、それぞれのセンサ情報から独立に抽出した情報を合わせただけでは、それぞれのセンサデータ間に存在する相補性を活かせるかどうかは不明である。本研究では、マルチモーダルセンサ情報の相補性を活用可能な特徴抽出法を開発し、低計算量の認識システムの構築を目指す。		
原子層制御ハーフメタルホイスラー合金/強誘電体ヘテロ構造の実証と低消費電力磁化制御への応用	山田 晋也 大阪大学 大学院基礎工学研究科助教	S 150
近年、次世代の低消費電力技術として「スピントロニクス」に注目が集まっており、スピン偏極率が1のハーフメタルホイスラー合金は、数多くのスピントロニクス素子で高い性能が実証されている。その一方、スピントロニクス素子の動作の要となる磁性体の磁化制御法の開発が急務となっている。本研究では、原子層制御ハーフメタルホイスラー合金/BaTiO <sub>3</sub> ヘテロ接合を低温形成する技術を開発し、低消費電力磁化制御技術への応用を目指す。		
機械学習を活用したイメージフリーシングルピクセル物体認識	遠藤 優 金沢大学 理工研究域助教	100
単一受光素子を用いた物体認識は、パターン照明を対象に照射して得た計測データから画像を再構成し、それを識別器にかけることで行われる。この場合、照明パターンは多数必要であり、計測時間の長大化を招いていた。本研究では、単一受光素子で計測したデータから、画像を再構成することなく、物体認識を行うシステムを開発する。また計測に用いられるパターン照明を機械学習によって最適設計する。これにより計測時間を大幅に低減させ、高速度な物体認識を行うことができるシステムを実現する。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
<b>[化学系材料]</b>		
選択的分子捕捉材料の開発と応用	村岡 貴博 東京農工大学 大学院工学研究院准教授	S 150
<p>多孔性材料は、様々な分子を効率的かつ選択的に吸着する特性を有する。これまでに、主としてガスなどの小分子の吸着が実現されてきた。本研究では、より大きな分子の選択的吸着を可能にする多孔性材料の開発を目指す。特に生体活性物質の捕捉に着目し、センシングや薬剤安定化などに有効な材料の実現を目指す。ペプチドの超分子集積を用いることで、多様な官能基を配置したキラル空間を設計可能であり、形と相互作用点の精密認識を実現する。</p>		
主鎖上ボロン酸エステル部位の変換に基づく循環利用型ビニルポリマー材料の開発	西川 剛 京都大学 大学院工学研究科助教	100
<p>近年、循環型社会の構築を目指して高分子材料の再利用に大きな関心が寄せられている。もし、使用後に特定の条件下で有用な低分子化合物へと変換することが可能な高分子材料を設計できれば、循環型社会に適合する高分子材料開発において大きなブレイクスルーとなる。そこで申請者は安定でありながら特定の条件下で活性化・変換可能な官能基であるボロン酸エステルを利用し、使用後に特定の低分子化合物へと高効率で変換可能なビニルポリマーを開発する。</p>		
リビングラジカル重合を利用した接着部が「成長する」ヒドロゲル接着法の開発	為末 真吾 宇都宮大学 工学部助教	100
<p>例えば寒天やプリンのような、構成成分の大部分が水からなる柔らかい材料「ヒドロゲル」は環境負荷が少なく、生体親和性の高い材料である。それ故にヒドロゲルは人工軟骨や人工筋肉などに利用することが期待されている。その際に重要になるのが「生体材料とヒドロゲル、もしくはヒドロゲルどうしの優れた接着手法の開発」である。本研究では優れた高分子合成手法であるリビングラジカル重合を利用し「生物のように成長し機能を習得するヒドロゲル接着手法の開発」する。</p>		
「かたち」の自在変換可能な新しい外部刺激応答性ポリマーの合成	平尾 岳大 広島大学 大学院理学研究科助教	100
<p>多様な性質を有するポリマー材料開発を目的に、様々な精密重合の手法が研究され、星型ポリマー、環状ポリマーなど様々な形状をしたポリマーの合成手法が確立されてきた。ポリマーの物理物性はポリマー全体の形状に依存するため、ポリマーの形状を自在に変換する手法を開発することができれば、物理物性を自在に変換できる新しいポリマー材料開発に繋がると考えられる。そこで今回、合成ポリマーの形状を自在に変換する新たな手法を開発することを目的とした。</p>		
四面体型分子を用いたメタルフリーペロブスカイト型強誘電体の物性制御	綱島 亮 山口大学 大学院 創成科学研究科准教授	100
<p>現在主流の強誘電体のほとんどはペロブスカイト型化合物で、毒性や希少金属を用いるため代替材料の開発が急務になっているものの、匹敵する物質群は未だない。我々はこれまでに、ヘキサメチレンテトラミンと呼ばれる廉価な有機分子と、アンモニウムイオン、臭化物イオンからなる金属イオンを一切含まないメタルフリーなペロブスカイト型化合物の開発に成功し、これが強誘電性を示すことを明らかにした。今回、他のイオン種で部分的に置換した固溶体の作製と物性評価を行い、代替化レベルの強誘電特性を達成するための研究を進める。</p>		
超臨界流体法によるイオン液体含浸メソポーラスシリカの創製とCCUSへの展開	宇敷 育男 広島大学 大学院工学研究科助教	S 100
<p>イオン液体は、地球温暖化ガスである二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)に対する高い物理吸収能力を有しており、CO<sub>2</sub>の分離回収・貯蔵(CCS)への利用が期待されているが、そのハンドリング性の悪さやコスト面の問題から実用化が進んでいない。こうした現状を打破するため申請者は、超臨界流体にイオン液体を溶解させた後、メソポーラスシリカの有するナノ細孔空間に含浸させることによりイオン液体含浸メソポーラスシリカを創製し、CCUS(Carbon Capture, Storage, and Utilization)へと展開する方法論を着想した。本研究課題はこのような方法論を具現化するためのものである。</p>		
多重外場応答性を示す多孔性磁気格子の開発と機能発現	関根 良博 東北大学 金属材料研究所助教	100
<p>本研究では、多様な電子状態を取りうる多孔性磁気材料を開発し、様々な刺激に対して応答可能な多重外場応答性磁石の機能開拓を行う。分子磁性材料は設計自由度が高く多重機能性の付与や外場に応じて可変磁石として振る舞うことが期待される。本研究では、電子ドナー・アクセプター型構築分子を自己集積化し、酸化還元活性な二次元層状化合物の創出する。対象物質群は、安価でかつ磁気スピンを有する鉄イオンと有機アクセプター分子が共有結晶的に連結した磁気・電子格子からなる集積型化合物であり、新規な機能性磁気材料を構築する。</p>		
電子伝達を機能する分子接着剤により結合した複合型光触媒の開発	中田 明伸 中央大学 理工学部助教	100
<p>炭素資源に依存した社会から脱却するために、太陽光エネルギーにより水を分解し水素を製造する人工光合成が目ざされている。本研究では、天然光合成のPSI、PSIIに見立てた半導体光触媒粒子を結びつけ、人工光合成反応において重要な電子伝達過程を効率よく機能する「分子接着剤」を開発することを目的とする。接着分子の酸化還元特性や分子軌道のチューニングにより光電子伝達の方向性制御と効率化を可能にする、これまでにない新たな分子-固体複合光触媒を構築する。</p>		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
<b>【物理系材料】</b>		
自己発電する電磁波シールド開発に関する研究	仕幸 英治 大阪市立大学 大学院工学研究科教授	S 150
環境電磁波のエネルギーを強磁性金属の強磁性共鳴により電気エネルギーに変換するエネルギーハーベスティング技術を開発中である。本研究では自己発電する電磁波シールドの開発を目標に、環境電磁波を効率良く電気エネルギーに変換するため次の3つの課題に取り組む。1、伝送線路による高周波磁界を用いる強磁性共鳴励起と起電力生成および高周波周波数依存性の評価。2、起電力の電磁波照射方向依存性の評価。3、永久磁石による静磁界を用いる強磁性共鳴励起と起電力生成。		
非平衡系原子・電子構造に対する同時計測技術の開拓による数層グラフェン特異物性の起源解明に関する研究	根岸 良太 大阪大学 大学院工学研究科助教	100
数層グラフェンは層間相互作用の強さや層間の回転角の違いに起因した積層構造の自由度があるため、単層では実現できない、超伝導性や擬似的ディラックフェルミオンなど特異物性の出現が理論的に予測されている。本課題では、量子ホール素子によるキャリア伝導評価と角度分解光電子分光法による電子構造解析及び、陽電子回折法による原子構造解析とを同時に計測できる技術を開発し、層間相互作用の異なる数層グラフェンにおける原子/電子構造とキャリア輸送特性との相関を直接観察し、特異物性の発現機構を解明する。		
電子相転移を示す酸化チタン薄膜の絶縁相安定化に関する研究	吉松 公平 東北大学 多元物質科学研究所講師	100
本研究では遷移金属酸化物を用いた相転移デバイス実現に向け、Ti2O3薄膜における絶縁相安定化の起源を明らかにする。結晶格子が整合する基板を選択して薄膜を成長し、結晶の異方性を考慮した電気伝導率の測定を行う。またTi2O3が相転移と結晶の変形度合いが密接に係る系であることを考慮し、面内および面直の格子定数の決定と基板との結晶配向関係を明らかにする。Ti2O3薄膜の相転移の原理を明らかにすることで、信頼性の高い相転移デバイス構造の設計へとつながっていく。		
強磁性金属/酸化物ヘテロ構造を用いたスピン軌道トルクデバイスの開発	山ノ内 路彦 北海道大学 電子科学研究所准教授	100
次世代の高速・低消費電力なランダムアクセスメモリや脳型コンピュータの構成デバイスと期待されているスピントロニクスデバイスでは、電気的かつ高効率にスピンを操作することが必要である。本研究では、高効率に電流-スピン変換(電流によってスピンを生成)可能な酸化物ヘテロ構造と強磁性金属の積層構造に着目し、この酸化物ヘテロ構造によって電気的かつ高効率に生成したスピンを利用して強磁性金属のスピンを操作するスピントロニクスデバイスの開発をめざす。		
螺旋誘起発光を利用した円偏光発光LED(CP-OLED)の開発	今井 喜胤 近畿大学 理工学部准教授	S 100
光には右回転する光と左回転する光の二種類の円偏光発光(CPL)が存在する。本研究はCPLを深部から理解し、発光性金属ランタノイドを螺旋状に配置することにより、生物走光特性・植物成長促進特性を備えた自家発光によりCPLを発するLED(CP-OLED)の開発を目指す。		
メモリ不要なバケット処理を見据えた光比較演算技術の集積デバイス化	相川 洋平 沖縄工業高等専門学校 助教	100
本研究は、メモリ不要なバケット技術の実用化を見据えて、光比較演算技術の集積デバイス化に取り組むものである。一般に、バケット処理はメモリを必要とすることから、光・電気間の信号変換を避けられず、高速動作時に膨大な電力を消費することが知られている。申請者は、このような問題に対して、光処理での比較演算技術を用いてメモリを代替する手法を提案する。さらに、本助成では当該技術をシリコン基板上に集積化する。これにより、超高速・低電力なバケット技術の実用化に寄与できるものと考えている。		
層間交換結合型フェリ磁性体を用いた高速磁壁移動デバイスの開発	塩田 陽一 京都大学 化学研究所助教	100
情報化社会の発展において、AIやIoTなどの新しい技術の普及には、ビッグデータの高速処理が鍵であり、電子デバイスの低消費電力・高速化が求められている。そこで、電子スピンの情報不揮発性を利用した磁気メモリの開発が精力的に行われている。本研究では、一般的な強磁性体の磁化ダイナミクスとは異なる特徴を有するフェリ磁性体に着目した。特に、申請者らが開発したより応用に適した鉄コバルトボロン(FeCoB)/酸化マグネシウム(MgO)接合を有する層間交換結合型フェリ磁性体を用いることで高速な磁壁移動の実現を目指す。		
完全バンドギャップを有する棒状の弾性メタマテリアルの開発	友田 基信 北海道大学 大学院工学研究院助教	100
内部に振動構造を持つ人工構造である弾性メタマテリアルの原理を利用して、特定周波数帯において圧縮・曲げ・ねじりのすべての振動モードの弾性波を通さない完全バンドギャップを持つ、丸棒および角棒を開発する。材料にとらわれないことを示すため、丸棒はアクリルパイプに、角棒は鉄パイプに、それぞれ同じ種類の素材で作られた振動構造を詰めて作製する。さらに応用を見据え、振動抑制周波数の広帯域化の研究や、実際に構造物として使用した場合での性能評価も行う。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
マイクロキャピティ型逆構造を用いた有機EL素子の高性能化	木場 隆之 北見工業大学 工学部助教	100
機能性を持つ金属・誘電体多層膜を利用したマイクロキャピティ型逆構造有機EL素子を作製し、発光の高色純度化、および素子の長寿命化、高効率化を目的とする。有機EL材料を積層した上に、陽極として誘電体/金属/誘電体構造、さらにその上に高・低屈折率材料の交互積層膜を成膜し、共振ミラーと封止膜双方の機能を発現させる。これによりディスプレイ用途としては低消費電力化・高演色化が期待できる上、従来のEL素子構造で必要とされる厳密な封止工程の簡略化が期待できる。		
合計	31件	3,100

## 第35回(2019年度)マツダ研究助成奨励賞一覧 - 科学技術振興関係 -

マツダ研究助成選考委員奨励賞は、マツダ財団設立30周年を記念して2014年度より新設されました。科学技術振興関係の助成対象の中から、若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした4件の研究に対して授与されるもので、副賞として研究助成金50万円が追加助成されます。

(註)研究代表者役職は応募時

分野	研究題目および選考理由	研究代表者
機械	Mg製医療用埋植素材開発に向けた液体高速噴射による有機-無機複合皮膜形成技術	中村 嘉恵 日本大学 理工学部助教
	Mg製品の医療分野への展開等を目的に、Mg基材上に有機/無機複合皮膜を形成させ、耐食性を持ったMg製生体埋植材の研究である。従来の水と生分解性ポリマーの混合液では蒸発しにくく蒸気コーティング処理が困難であったが、微粒化して高速噴射することでブレイクスルーする点に新規性がある。また、研究計画も具体的であると共に、Mg以外の様々な金属材料への展開も期待できる。	
電子・情報	原子層制御ハーフメタルホイスラー合金/強誘電体ヘテロ構造の実証と低消費電力磁化制御への応用	山田 晋也 大阪大学 大学院基礎工学研究科助教
	本研究は、スピントロニクス素子の磁化方向制御において、大電流が必要な電流注入ではなく、電圧による制御を実現するために、強誘電体であるBaTiO <sub>3</sub> 上にハーフメタルホイスラー合金薄膜を低温で作製する手法を提案するものである。これによって、ヘテロ界面での電気磁気効果を発現させ、低消費電力での磁気制御を実現し、スピントロニクス技術への貢献が期待できる。その独創的、且つ新規性の高い研究内容に対して、奨励賞を贈呈する。	
化学系材料	選択的分子捕捉材料の開発と応用	村岡 貴博 東京農工大学 大学院工学研究科准教授
	多孔性材料は、様々な分子を効率的かつ選択的に吸着する特性を有しており、これまでに、主としてガスなどの小分子の吸着が実現されてきた。本研究では、より大きな分子の選択的吸着を可能にする多孔性材料の開発を目的とし、特に、生理活性物質の捕捉に着目し、センシングや薬剤安定化などに有効な材料の実現を目指すものである。柔軟な構造を有する有機リガンドに着目した研究は、独自性、先進性に優れており、既に錯体の構築にも成功していることから、実現性が高く、研究奨励賞にふさわしいものとする。	
物理系材料	自己発電する電磁波シールド開発に関する研究	仕幸 英治 大阪市立大学 大学院工学研究科教授
	本研究は、環境電磁波のエネルギーを強磁性金属の強磁性共鳴により電気エネルギーに変換するエネルギーハーベスティング技術を目指している。従来は、電磁波侵入長よりも厚い金属板でシールドし遮蔽された電磁波のエネルギーは利用されなかったが、本研究では、その破棄されていた電磁波をFMRにより電気エネルギーに変換する技術である。この技術は、あらゆる周波数に対応でき、これまでになかった局所発電技術の開発なので、非常用照明のための蓄電やウェアラブル端末の電源として応用展開が広く、オリジナル性が高い独創性と先進性を有している。	

## - 2 . 事業助成

### 1 . 募集・応募・選出状況

#### (1) 募集

次の内容で募集を行いました。

##### (a) 助成趣旨

学会・研究機関等が中国地方で開催する小中高の生徒を対象とした「科学体験」に関する事業・研究会等で、科学技術振興に有意義と認められるものに対し、その費用の一部もしくは全額を助成します。

##### (b) 助成対象

中国地方の大学（含、附属研究機関）、高等専門学校、民間の非営利団体に所属し、申請事業の開催責任者または出版物の主なる著者によって、2019年6月から2020年5月に実施される

- ・ 「科学体験」事業の開催
- ・ 学会・シンポジウム等の「科学体験」推進に関する研究会の開催
- ・ 「科学体験」に関する研究成果出版物の刊行、教材等の試作
- ・ その他、「科学体験」に関し財団が有意義と認めるもの

(c) 募集方法 公募

(d) 対象地域 中国地方

(e) 助成金総額 200万円

(f) 助成件数 10～15件

(g) 1件当たり助成金額 10～20万円

(h) 助成期間 2019年6月から2020年5月

(i) 募集期間 2019年4月1日～5月6日

#### (2) 応募状況

本年度は、36件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別

・鳥取県	2件	・広島県	12件
・島根県	10件	・山口県	10件
・岡山県	2件		

(b) 分野別

(1) 体験事業の開催	35件
(2) 研究会等の開催	0件
(3) 成果出版物の発刊・教材等の試作	0件
(4) その他	1件

#### (3) 助成対象者の選出

マツダ事業助成 - 科学技術振興関係 - 選考委員会(5月21日)において慎重に審査された結果、助成候補として15件が選出され、第37回理事会(6月6日開催)において報告されました。

## 2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

### (応募件数および助成件数)

	本年度(第35回) 2019年度	第34回 2018年度	第33回 2017年度
応募件数 (件)	36	32	21
助成件数 (件)	15	15	15
助成比率 (%)	42	66	71
助成金総額 (万円)	200	200	200

### (地域別状況)

地 域	2019年度		2018年度		2017年度	
	件数	助成件数	件数	助成件数	件数	助成件数
鳥 取 県 (件)	2	1	2	1	0	0
島 根 県 (件)	10	2	10	2	7	3
岡 山 県 (件)	2	1	2	1	3	3
広 島 県 (件)	12	6	12	6	4	4
山 口 県 (件)	10	5	10	5	7	5
合 計 (件)	36	15	36	15	21	15

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

### (分野別状況)

分 野	2019年度		2018年度		2017年度	
	件数	助成件数	件数	助成件数	件数	助成件数
(1)体験事業の開催 (件)	35	15	29	14	27	14
(2)研究会等の開催 (件)	0	0	1	0	4	1
(3)成果出版物の発刊 ・教材等の試作 (件)	0	0	2	1	0	0
(4) その他 (件)	1	0	0	0	0	0
合 計 (件)	36	15	32	15	31	15

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

### 3. 第35回(2019年度)マツダ事業助成一覧 - 科学技術振興関係 -

事業名 ( [ ]内は小・中・高生の参加者数)	開催地	事業責任者 (役職は応募時)	実施期間	助成金額 (万円)
IoTを活用して未来の住まいや暮らしをデザインする！プログラミング教育教材の開発と授業実践	山口市	西尾 幸一郎 山口大学教育学部 准教授	2019/6/1 ~ 2020/4/30	15
参加者(総人数) 75名 [内、生徒 75名]				
高校生のためのAI・IoTプログラミング教室とオンライン学習コンテンツの開発	広島市	市村 匠 県立広島大学 地域基盤研究機構長	2019/8/1 ~ 2020/3/31	11
参加者(総人数) 40名 [内、生徒 30名]				
プログラムによる計測・制御を用いたライントレースロボットを製作する工作教室	福山市	長澤 武 日本宇宙少年団 福山南コースス 事務局長	2019/9/1 ~ 2019/10/30	15
参加者(総人数) 45名 [内、生徒 25名]				
電子工作×プログラミング - セキュリティ機能付きのスマートハウスを作ろう -	周南市	河村 麻子 徳山工業高等専門学校 技術職員	2019/8/9 ~ 2019/8/31	14
参加者(総人数) 40名 [内、生徒 30名]				
呉高専ミニロボコンおよび体験教室の開催	呉市	野村 高広 呉工業高等専門学校 教授	2019/6/1 ~ 2020/5/31	16
参加者(総人数) 600名 [内、生徒 300名]				
地域発・課題探求型授業「インキュベーションワーク」と連携したサイエンスショーと科学・工作教室	呉市	黒木 太司 呉工業高等専門学校 協働研究センター長	2019/5/25 ~ 2019/12/14	12
参加者(総人数) 1000名 [内、生徒 800名]				
秋虫の声を聴く会	山口市	佐伯 英人 山口大学教育学部 教授	2019/10/5 ~ 2019/10/6	14
参加者(総人数) 50名 [内、生徒 20名]				
米子高専公開講座 動かして学ぶプログラミング入門	米子市	松本 充 米子工業高等専門学校 技術長	2019/8/17 ~ 2019/8/18	10
参加者(総人数) 40名 [内、生徒 20名]				
第4回 広島ジュニアサイエンスフェア (通称じゃすふぁ)	広島市	くや みつお 広島干潟生物研究会 事務局長	2019/1/5 ~ 2019/1/5	12
参加者(総人数) 500名 [内、生徒 300名]				
「かざすと光る！不思議なキーホルダーを作ってみよう」	松江市	中西 大輔 松江工業高等専門学校 助教	2019/7/1 ~ 2019/8/31	9
参加者(総人数) 40名 [内、生徒 40名]				
サイエンス・ピクニック ～小学生のための「やってみたい」がいっぱい	周南市	奥本 幸 徳山工業高等専門学校 教育研究支援センター長	2019/8/9 ~ 2019/8/9	14
参加者(総人数) 120名 [内、生徒 100名]				
自転車用の安全運転チェッカーを作ろう！ ～作って学ぶセンサの仕組み～	松江市	池田 総一郎 松江工業高等専門学校 実践教育支援センター 技術専門職員	2019/7/20 ~ 2019/8/31	16
参加者(総人数) 25名 [内、生徒 25名]				
くれサイエンすくーる	呉市	濱田 みゆき 大和ミュージアム 工作教室等運営 事務局長	2019/10/1 ~ 2020/3/31	15
参加者(総人数) 130名 [内、生徒 100名]				
再生可能エネルギーを学習する電子回路工作 ～太陽光パネルの実験とLED点滅器の作製～	津山市	西尾 公裕 津山工業高等専門学校 教授	2019/6/17 ~ 2020/1/31	12
参加者(総人数) 200名 [内、生徒 170名]				
サイエンスを視覚的に伝える - スマホ顕微鏡で体験するミクロの世界	宇部市	島袋 勝弥 宇部工業高等専門学校 准教授	2019/10/19 ~ 2019/10/19	15
参加者(総人数) 700名 [内、生徒 600名]				
<b>合 計</b>				<b>15件</b>
				<b>200万円</b>



## - 3 . 科学わくわくプロジェクト

### (1) 内容

「科学わくわくプロジェクト」は、マツダ財団と広島大学等が連携して青少年の健全育成と科学技術の振興を目指して実施する事業です。次の時代を担う小学生・中学生・高校生に、考えること、学ぶことにわくわくする体験、正解のない問題に取組みブラックボックスをこじ開けてみる体験といった機会を継続的に提供することにより、科学する心を育てることを目的としています。

「科学わくわくプロジェクト」は、次の特徴を有しています。

- ・現場の教員の議論により生まれたプロジェクトである。
- ・財団と大学の連携事業である。
- ・多様な事業で構成される複合的な事業である。
- ・教育効果の評価を通じて学校教育への波及効果も期待される。

### (2) 連携先

科学わくわくプロジェクト実行委員会

委員長：比治山大学現代文化学部 林 武広 教授

### (3) 主要事業

サイエンスレクチャー（中高生を対象とした出張・出前型講座；要請により可能な範囲で社会人等も対象とする）

第1回：2020年2月20日（広島市立阿戸中学校 1、2学年 30名）

- ・講師：比治山大学 林 武広 教授
- ・テーマ：「自然災害とそれらへの備えについて」

第2回～第8回

- ・新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休校措置により実施できず、延期。

ジュニア科学塾（理科好きの中学生が高度な科学内容を学ぶことを通して先端的科学への関心を高め、学ぶ意欲を育む集中講義）

～年間テーマ「宇宙」

第1回：2019年8月8日

- ・講師：比治山大学 林 武広 教授
- ・テーマ：「最も身近な恒星 太陽」（8名）

第2回：2019年8月8日

- ・講師：広島大学宇宙科学センター長 川端 弘治 教授
- ・テーマ：「星の誕生と終わり，星雲，星団」（7名）

第3回：2019年8月9日

- ・講師：広島大学宇宙科学センター 植村 誠 准教授
- ・テーマ：「暗黒物質：ダークマター」（11名）

第4回：2019年8月9日

- ・講師：広島大学宇宙科学センター 稲見 華恵 助教
- ・テーマ：「銀河と宇宙進化，光のスペクトル観測，赤外線観測」（10名）

第5回：2019年8月10日

- ・講師：広島大学宇宙科学センター 笹田 真人 特任教授
- ・テーマ：「ブラックホールの姿をとらえる」（12名）

第6回：2019年8月10日

・講師：わくプロ実行委員 藤川 義範

・テーマ：「広島市子ども文化科学館プラネタリウム視聴」（7名）

理科ひろば（小中学校理科授業充実のための教員支援としての、小学校高学年理科出前示範授業及び現職教員研修）

・小学校高学年理科示範授業

講師：比治山大学現代文化学部 林 武広 教授

比治山大学現代文化学部 山田 耕太郎 准教授

わくプロ実行委員会 藤川 義範 委員

テーマ：授業実践講座または模擬授業

内容：「流水の働きと土石流、津波」「地震防災」（4、5年生）

「月と太陽」（6年生）

「プログラミング」（5、6年生）

・教員へのインタビュー調査

流水の働きと土石流、津波の授業では授業の有効性について児童対象にアンケート調査を行った。併せて授業で連携した担任教師と管理職合計19名に対してこのような授業にあり方や防災学習の課題等についてインタビュー調査を行った。また「月と太陽」の授業についても連携した教師に対し授業の効果、教具の意義などについてアンケート調査を行った。

・教員免許更新講習

夏期に実施される小中教員対象の教員免許更新講習において防災学習のトピックスを紹介し、その重要性を強調した。

(4) 実施額 100万円

## 青少年健全育成に関する活動の概要

### - 1. 研究助成

#### 1. 募集・応募・選出状況

##### (1) 募集

次の内容で募集を行いました。

##### (a) 助成趣旨

工業化社会、情報化社会の著しい進展による社会環境の変化は、国民の社会生活に多様な影響を及ぼしています。中でも青少年の健全な心身の発達を阻む面のあることを認めざるを得ません。こうした青少年の健全な育成への支援を通して、心豊かに生きることの出来る社会の実現を願い、そのためのすぐれた研究に対し、一助として費用の一部もしくは全額を助成します。

##### (b) 助成対象

本財団の設立趣旨である「青少年の健全育成」に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究を対象とします。

対象研究分野： ボランティア育成 災害復興・災害対策に関する活動 青少年の居場所づくり 地域連帯、コミュニティづくり 自然とのふれあい 国際交流・協力 科学体験・ものづくり

##### (c) 募集方法

公募

##### (d) 助成金総額

400万円

##### (e) 助成件数

5～6件

##### (f) 助成期間

1年または2年

##### (g) 募集期間

2018年4月15日～6月17日

##### (2) 応募状況

本年度は、42件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

##### (a) 地域別

・中部以東	16件(38%)
・関西以西	26件(62%)

##### (b) 分野別

ボランティア育成	1件(2%)
災害復興・災害対策に関する活動	4件(10%)
青少年の居場所づくり	13件(31%)
地域連帯、コミュニティづくり	12件(29%)
自然とのふれあい	1件(2%)
国際交流・協力	4件(10%)
科学体験・ものづくり	7件(17%)

##### (3) 助成対象の選出

選考委員会(7月25日)において慎重審議の結果、助成候補として6件が選出され、第39回理事会において正式に承認決定されました。

##### (4) 助成金の贈呈

2019年10月に研究代表者を訪問し、助成金を贈りました。

## 2. 成果報告会

(a) 日時：2020年2月11日(火) 13:00-17:00

(b) 場所：広島市西区民文化センター3F 大会議室 A,B,C

- (c) 参加者：研究者（全国）6名、市民活動団体 31 団体 71 名（広島 20 団体 41 名、山口 11 団体 30 名）、  
パネルディスカッション司会 1 名、一般参加 15 名、メディア 2 名、選考委員 4 名、  
マツダ財団 6 名、合計 105 名
- (d) 開催目的：当財団では、設立以来 35 年間、青少年健全育成事業として研究助成と市民活動支援を続けてきました。そこで、今年度は、新たな試みとして研究と実践の融合、広島と山口の市民活動団体の交流を目的として研究助成と市民活動支援の合同成果報告会を開催しました。
- (e) 実施内容：基調講演、研究者のステージ発表、市民活動団体のポスターセッション、研究者&市民活動団体によるパネルディスカッションを行いました。

## 2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

### (応募件数および助成件数)

	本年度(第35回) 2019年度	第34回 2018年度	第33回 2017年度
応募件数(件)	42	34	32
助成件数(件)	6	6	6
助成比率(%)	14	18	19
助成金総額(万円)	400	400	400

### (地域別状況)

地域	2019年度		2018年度		2017年度	
	応募件数	助成件数	応募件数	助成件数	応募件数	助成件数
中部以東(件)	16	2	19	4	14	3
近畿(件)	8	1	2	0	6	1
中国・四国(件)	13	2	10	2	8	0
九州・沖縄(件)	5	1	3	0	4	2
合計(件)	42	6	34	6	32	6

(左側数字:応募件数,右側数字:助成件数)

### (分野別状況)

分野	2019年度		2018年度		2017年度	
	応募件数	助成件数	応募件数	助成件数	応募件数	助成件数
ボランティア育成(件)	1	0	1	0	2	1
災害復興・災害対策に関する活動(件)	4	0	-	-	-	-
青少年の居場所づくり(件)	13	0	-	-	-	-
地域連帯、コミュニティづくり(件)	12	3	2	1	5	1
自然とのふれあい(件)	1	1	-	-	-	-
国際交流・協力(件)	4	1	-	-	-	-
科学体験(件)	7	1	4	0	4	2
青少年をとりまく環境(件)	-	-	22	4	19	2
前各号に類する分野(件)	-	-	5	1	2	0
合計(件)	42	6	34	5	21	2

(左側数字:応募件数、右側数字:助成件数、分野は審査時)

### 3. 第35回(2019年度) マツダ研究助成一覧 - 青少年健全育成関係 -

助成対象研究の概要は、以下のとおりです。

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額(万円)
住民参加型による外国人技能実習生の地域包摂に関する調査研究 ～鹿児島県大崎町を事例に～	酒井 佑輔 鹿児島大学法文学部准教授	60
研究代表者は、外国人労働者が加速度的に増加している地方地域（特に鹿児島）の国際化や多文化共生状況に関する調査にこれまで取り組んできた。本研究では、鹿児島県大崎町における外国人技能実習生の地域での包摂状況や課題の可視化並びにその解決を目的として、基礎自治体や地域コミュニティ、NPO、留学生含む本学学生、当事者である技能実習生等の地域のキーパーソンとの協働を通じた（１）参加型アクションリサーチ、（２）調査結果を踏まえた課題解決型連続ワークショップを開催する。		
フィールド調査及び企画運営を通じた子ども食堂の潜在的意義と 今日の課題に関する基礎的研究：高知市を対象に	野田 満 首都大学東京都市環境学部助教	60
本研究は、経済的または社会的理由により「家族や仲間と」「良質共に充分な」食事を摂れない子どもたちの為に、無料または低価格で食事を提供する「こども食堂」を対象としたものである。具体的には、運営（立ち上げプロセス、体制、資金等）、物理的空間（空間構成やアクティビティ）、社会的空間（社会関係資本の有無や程度）からみた実態把握、及び運営企画実験を通じたアクションリサーチに基づき、青少年の健全な育成の為に機能空間づくりに資する知見を得る。		
地域特性をふまえた若者支援の研究：愛媛県東予地域を事例に	尾川 満宏 愛媛大学教育学部准教授	70
本研究は、愛媛県東部（東予地域）での調査をもとに、地域の人々に経験された学校から社会へ、子どもから大人への移行（トランジション）の実態を明らかにする。とりわけ、調査地域に固有の構造変容と人々の生き方・働き方の変化を関連づけて分析することで、地域の歴史や特質に応じた若者支援施策を展望する。そのために、東予地域の産業・文化・教育・生活に関するフィールドワークと、現地の多世代の人々（20～50歳代）に対するインタビュー調査を行う。分析によって得られた知見を既存の社会理論と対比し、「地域性」（ローカリティ）を考慮する新しい見方を構築しつつ、東予地域において有効な若者向けキャリア形成・社会参画の支援施策を提案・発信する。		
パフォーマンス共同創作を通じた留学生と日本の学生とのコミュニティ形成に関する実践研究	中野 遼子 大阪大学国際教育交流センター特任助教	80
近年、日本の大学で増加する留学生へのサポートとして、日本の学生とのコミュニティ形成を促進する教育的介入の必要性が主張されている。そこで、本研究は、授業で異文化交流促進のために演劇やダンスなどのパフォーマンスを共同創作する課題を課し、それが留学生の日本の学生とのコミュニティ形成、生活や心身、学外の活動にどう影響を与えるかを面接調査法により解明する。さらに、そこから大学外でも活用可能な要因を特定し、様々な文化的背景を持つ青少年と地域住民の交流を促す活		
小学生を対象とした社会の問題発見・解決に対応できるモデル ベース開発的思考教育の開発	川田 和男 広島大学大学院教育学研究科准教授	70
日本では、2020年度より小学校にプログラミング教育が導入されるが、教育現場ではどのような教育を行っていけばいいか不安を感じている。そこで本研究では、小学校のプログラミング教育にモデルベース開発的思考を発達段階に応じて教育する教材を開発することを目的とする。数理モデルや情報活用による社会の問題発見・解決するための学習となるように配慮する。また、中学校技術・家庭科技術分野における「プログラムによる計測・制御」の内容にもつながる教材を目指す。		
青少年教育施設の家族参加型体験事業に対する保護者の期待に関する研究	庄子 佳吾 愛知文教女子短期大学幼児教育学科助教	60
本研究では、子供と大人が共に学び・育ち合える身近な場として、また、家庭教育を支援する施設として、青少年教育施設に対する保護者の意識や期待を明らかにするとともに、現代社会に即した家庭への支援の可能性について考察することを目的とする。これらを明らかにすることで、家庭における体験活動ひいては青少年の体験活動の充実に寄与するものとする。青少年教育施		
<b>合 計</b>	<b>6 件</b>	<b>400 万円</b>

## - 2 . 市民活動支援

### 1 . 募集・応募・選出状況

#### (1) 募集

次の内容で募集を行いました。

- (a) 対象活動 青少年の健全育成を目的とした、民間の非営利活動  
「ボランティア育成」「災害復興・災害対策に関する活動」「地域連帯、コミュニティづくり」「青少年の居場所づくり」「自然とのふれあい」「国際交流・協力」「科学体験・ものづくり」等
- (b) 募集地域 広島県、山口県
- (c) 支援期間 単年度支援 2019年4月1日～2020年3月31日の1年間
- (d) 支援金総額 800万円
- (e) 1件当り支援金額 10万円～50万円
- (f) 募集期間 2018年10月15日～2019年1月14日

#### (2) 応募状況

本年度は、108件の応募を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

- (a) 地域別
- ・ 広島県（広島市を除く） 37件(34%)
  - ・ 広島市 47件(44%)
  - ・ 山口県 24件(22%)
- (b) 分野別
- ・ 自然とのふれあい 12件(11%)
  - ・ ボランティア育成 3件(3%)
  - ・ 地域連帯、コミュニティづくり 34件(31%)
  - ・ 国際交流・協力 7件(7%)
  - ・ 科学体験・ものづくり 12件(11%)
  - ・ 災害復興・災害対策に関する活動 9件(8%)
  - ・ 青少年の居場所づくり 15件(14%)
  - ・ その他 16件(15%)

#### (3) 支援対象の選出

選考委員会（2019年2月18日、19日開催）での審議の結果、支援候補として、32件が選出され、2019年3月22日開催の第36回理事会において正式に承認決定されました。

#### (4) 支援金の贈呈

- ・ 広島県 2019年4月16日、マツダ株式会社本社で贈呈式・交流会を開催。広島県内の21団体に対して、支援金を贈りました。
- ・ 山口県 2019年4月23日、マツダ株式会社防府工場で贈呈式・交流会を開催。山口県内の11団体に対して、支援金を贈りました。

## 2 . 成果報告会

前述 - 1 . 研究助成のページ参照。

## 2. 支援件数の推移

本年度を含む3年間の支援件数、内訳は次のとおりです。

### (応募件数および支援件数)

	本年度(第35回) 2019年度	第32回 2018年度	第32回 2017年度
応募件数 (件)	108	99	110
支援件数 (件)	32	30	32
支援比率 (%)	30	30	29
支援金総額 (万円)	800	800	800

### (地域別状況)

地域	2019年度		2018年度		2017年度	
	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数
広島県 (件)	37	10	34	12	49	15
広島市 (件)	47	11	39	10	38	10
山口県 (件)	24	11	26	8	23	7
合計 (件)	108	32	99	30	110	32

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

### (分野別状況)

分野	2019年度		2018年度		2017年度	
	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数
ボランティア育成 (件)	3	0	11	6	14	5
災害復興・災害対策 (件)	9	4	-	-	-	-
地域連帯、コミュニティ (件)	34	10	42	14	58	19
青少年の居場所づくり (件)	15	6	-	-	-	-
自然とのふれあい (件)	12	3	20	6	19	4
国際交流・協力 (件)	7	1	15	2	8	2
科学体験・ものづくり (件)	12	6	11	2	7	1
エ コ (件)	0	0	0	0	4	1
その他 (件)	16	2	0	0	4	0
合計 (件)	108	32	99	30	110	33

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)



### 3. 第35回(2019年度)マツダ市民活動支援一覧 - 青少年健全育成関係 -

活 動 名	団 体 名	地 域	金 額 (万円)
「地域全体で子育て・親育ち応援!!」～地元を愛し、お互いに元気になろう～	府中町家庭教育支援チーム「くすのき」	広島県 安芸郡	20
お宝野菜に学ぶ伝統料理の継承と循環型社会	Team JIN「仁」(呉市市民公益活動団体)	広島県 呉市	28
AIに負けない子供育成プロジェクト(子供達で耕作放棄地から味噌販売)	チーム豆っこ	広島県 東広島市	30
小学生対象の感動を与えるプログラミング教室	近畿大学工学部 教育情報システム研究室	広島県 東広島市	45
持続可能な地域創造	NPO法人フリースクール木のねっこ	広島県 廿日市市	22
発達障がい・成人対象音楽療法グループ にこにこ音楽クラブ・シニア	三原音楽療法研究会	広島県 三原市	13
本と多様な価値観に出会う居場所づくり活動	私設図書館「さんさん舎」	広島県 尾道市	24
不法投棄の川を観光地に変えたボランティア	堂々川ホテル同好会	広島県 福山市	22
子どもたちの力でふるさと再発見 つたえよう、ひろめよう備後緋音頭	備後緋音頭をつなぐ会	広島県 福山市	10
芸北小ふるさと夢プロジェクト～教室はわたしたちの町～	芸小と山の匠たち	広島県 山県郡	22
子どもから高齢者まで誰もが来られる地域の居場所づくり	矢野の家(旧 笑顔つながり隊)	広島県 広島市	35
フリースクール おくはた分校	フリースクール おくはた分校	広島県 広島市	22
自律型ロボット競技大会の開催とこれを通じた次世代ボランティア人材の育成	ロボカップジュニアジャパン広島ブロック運営委員会	広島県 広島市	12
地域を愛する青少年の養成を実現する 防災士による地域防災活動	広島市防災士ネットワーク	広島県 広島市	32
輝楽希楽列車(きらきられっしゃ)	佐伯文化芸能振興会	広島県 広島市	30
発達障がい児を自分のスペシャリストに!	(一社) クローバーの会	広島県 広島市	40
“space to find treasures!”(宝物を見つける場所)	しもJOY	広島県 広島市	22
SKCアカデミー～発達障がいを持つ児童生徒対象サッカー教室展開事業～	一般社団法人日本発達支援サッカー協会(JDSFA)	広島県 広島市	30
絵本と紙芝居のコラボで感性の種まき	絵本たねまき塾	広島県 広島市	18
子どもたちに夢と希望を!プロジェクト(子どもたちの環境を整えるため、家族サポートをおこなう)	ピアサポート子育て相談センター	広島県 広島市	35
「わが家の防災士」育成! 親子de防災キャンプ	アウトドアコミュニティ ハンターキッズ	広島県 広島市	22
育てて! 拡がれ! 未来の地球 ミニソーラーカー工作教室	宇部市地球温暖化対策ネットワーク(UNCCA)	山口県 宇部市	26
「温故知新プロジェクト」若い力で私達の街を国際学園都市へ発展させよう!	NPO法人 ワン・フォー・オール	山口県 宇部市	30
ものづくり科学教室	日本宇宙少年団 周南分団	山口県 周南市	10
地域社会と連携した子育て健全育成サポート	日立のぞみ会	山口県 下松市	28
おごおりウィークエンドアドベンチャー	おごおりウィークエンドアドベンチャー実行委員会	山口県 山口市	15
山災塾(若者対象災害ボランティア育成プロジェクト)	災害復興支援団体 山口災害救援	山口県 山口市	35
理系子ども育成応援活動	NPO法人 山口科学技術子供フォーラム	山口県 防府市	12
「自己肯定感」を育む地場産業開発プログラム	公益社団法人防府青年会議所	山口県 防府市	40
『とりでこども食堂』・『とりでモーニング』『とりで塾』『退所児童等アフターケア事業』	NPO法人とりで	山口県 岩国市	40
虹の鯉のぼりプロジェクト	虹の鯉のぼりプロジェクト実行委員会	山口県 光市	10
わくわく土曜塾～多世代交流と国際交流～	わくわく土曜塾実行委員会	山口県 長門市	20
合 計	32件	800万円	〔 広島県 21件 534万円 山口県 11件 266万円 〕

### - 3 . 感動塾・みちくさ

#### (1) 内容

「感動塾・みちくさ」は、子どもたちが身近な生活の中にあるものを題材として、仲間づくりを行い、協力・創意工夫することにより、未知なる物への興味を喚起し感動する心を育むこと、合わせて科学や技術への興味、関心を高めることを目的とした事業であり、1998年度から実施しています。

#### (2) 共同開催

(公財)広島市文化財団との共催。

#### (3) 開催場所・開催日等

広島市青少年野外活動センター

・2019年8月19日～8月21日

・テーマ：「水について学ぼう」

・ねらい 豊かな自然に親しむとともに、期間を通して初対面の友だちやスタッフと寝食を共にすることにより、協調性・自主性や思いやりなどを養う。

自然観察を通して、自然の事物・現象について理解を深め、自然科学分野への興味関心を喚起する。

・参加者：小学3～4年生 55名

広島市三滝少年自然の家

・2019年8月20日～8月22日

・テーマ：「ふしぎ 発見 感動体験 ～風とエネルギー～」

・ねらい 身近なものからテーマを選び、実験・観察、工作などの直接体験を通して、自然や科学技術に対する興味・関心を高める。

集団宿泊活動を通し、互いに協力することや相手を思いやることの大切さに気付かせる。

・参加者：小学4～6年生 48名

広島市似島臨海少年自然の家

・2019年8月23日～8月25日

・テーマ：「浮力の不思議」

・ねらい 実験等を通して、科学への関心を高めるとともに、科学的な見方や考え方を養う。

似島の海を舞台に自然に親しみ、自然に対する興味を深めるとともに、自然現象を科学的に捉える。また、自然と人間との関係を考える。

集団生活において必要なコミュニケーション能力を習得する。

・参加者：小学4～6年生 55名

#### (4) 実施額

130万円(マツダ財団負担分)

## - 4 . スタートラインプロジェクト

### (1) 内 容

「スタートラインプロジェクト」は、被虐待児等の自立を支援することを目的とした事業です。子どもシェルター「ピピオの家」（緊急避難場所）および「はばたけ荘」（自立援助ホーム）を開設・運営しているNPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で、被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発、活動基盤の充実等を支援する事業を、2013年度から実施しています。

### (2) 連携先

特定非営利活動法人ピピオ子どもセンターとの連携。

### (3) 主要事業

被虐待児等に対する学習支援や就職・自立の支援、また、スタッフ・ボランティアスタッフのスキルアップのために、研修への参加や養成講座の開催等に対する支援を行った。

被虐待児等の成長を支援するプログラム

- ・実施概要：「ピピオの家」「はばたけ荘」の入居者に対する、マナー講座、図書購入、就業活動のための費用支出、自立支援のための支出、誕生会やクリスマス会などの行事の開催などを行った。
- ・対 象 者：今年度の「ピピオの家」の入居者 6名、「はばたけ荘」の入居者 5名

スタッフの能力開発を支援するプログラム

「第7回NPO法人ピピオ子どもセンターボランティアスタッフ養成講座」

- ・実施概要：スタートラインプロジェクト実行委員会（ピピオ子どもセンター・マツダ財団）として、以下のとおり共催した。

2019年6月12日	ガイダンス及び子ども担当体験報告
2019年6月19日	思春期の性について
2019年6月26日	居場所のない子どもたちの実情
2019年7月 3日	子どもとの関係づくりについて
2019年7月10日	子どもに対する接し方
2019年7月17日	発達に障害がある子への接し方
2019年7月24日	「ピピオの家」「はばたけ荘」って、どんなところ？
2019年7月31日	シェルター・自立援助ホームに関わる法制度

- ・参 加 者：22名が受講。

このうち20名が全8講を修了し、さらにこのうち14名が、相談・面接を経て、ピピオのボランティアスタッフとして登録した。

その他、ピピオ子どもセンターの実施する以下の活動を支援した。

- 2019年11月23日～24日 子どもシェルター全国ネットワーク会議2018（和歌山）参加
- 2019年12月21日～22日 日本子ども虐待防止学会（JaSPCAN）第24回学術集会兵庫語大会参加

### (4) 実施額

100万円(マツダ財団負担分)

## - 5 . 若者×ツナグバ

### (1) 内容

「若者×ツナグバ」は、高齢化社会や格差社会が進む状況下で、青少年の最終ステージともいえるべき「社会人になる直前の若者」「社会に出て間がない若者」が、今の社会に希望を持ち、自立していくことを支援する事業です。若者一人ひとりが、社会情勢を正しく認識したうえで、多様な考え方から自分が納得のできる生き方を見つけ、その潜在能力を高め、選択肢を増やし、希望につなげていくことを目的としています。そのために「対話」「表現活動」「居場所づくり」等の活動を市民活動3団体との連携によって進めています。

### (2) 主要事業

本年度は、「特定非営利活動法人 ほしはら山のがっこう」(三次市)、「特定非営利活動法人 三次おやこ劇場」(三次市)、「府中町地域活動青年団体 志楽蝶」(府中町)の3団体との連携3年目(最終年)でした。

#### ほしはら山のがっこう「若者×ツナグバプロジェクト2019」

毎月第4土曜日に、三次CC プラザセントラルコートにおいてツナグバカフェを開催しました。学校や職場・家ではない「サードプレイス」を設置し、つながりの場をひらくことで、普段の評価とは違う「一人称」の個人同士が出会えるきっかけを作りました。運営する10代~20代の若者スタッフを募集し、彼らをサポートすることで、若者による若者のためのツナグバづくりを行いました。延べ300名の参加者と延べ60名の若者スタッフが参加してくれました。このほか、若者スタッフによる「森のおもちゃフェスタ」でのテーマトークライブやボードゲーム体験コーナーの開設(9/22-23)さらに、若者スタッフによる年越しキャンプ開催(12/31-1/1)など、若者スタッフの育成を図りました。

#### 三次おやこ劇場「自分の手で、自分の居場所をつくろう！」

石窯作りが完成したので、次は、拠点である古民家の奥の部屋を若者と一緒にDIYでリフォームしました。床の基礎から壁、窓、電気工事を行い、カウンターを設置し、子供たちがゲームや映画を楽しめるスクリーンを設置しました。多くの人たちの協力で見違えるようなスペースが出来上がりました。そのこけら落としとしてクリスマス会(12/22)やもちつき大会(1/18)を実施し、近所の人たちにも楽しんでいただきました。残念ながら予定していたひな祭り(2/29)以降は、新型コロナウイルスの影響で中止となりました。

#### 志楽蝶「府中町に若い風を」

・府中町を盛り上げようと結成された若者の団体で、府中町で行われる行事へ積極的に参加するだけでなく、今年度は、自分たちの企画も推進してきました。府中町で活躍する様々な分野の団体を集め、府中町で何ができるかをテーマにした「府中町サミット」(5/29)を開催し、「府中音楽フェスティバル」では企画・運営を任せられました(9/29)「府中町立府中中学校」での講義(8/27)「つばき祭り」(10/26)「ヒューマンフェスタ」への参加(12/1)「ハッピーフェスタ2019」(12/15)や、くすのきプラザ「成人式」への参加(1/13)等を行いました。また、紙屋町シャレオ「安芸地区自慢大会」への参加(1/18)やグッズ展開も行いました。

・若者の居場所であり活動拠点でもある志楽蝶BASEを運営すると共に、メンバーの絆を強めるためにオリエンテーションを岡山で行ったり(8/13)、クリスマス会を開催しました(12/27)

### (3) 実施額

150万円(マツダ財団負担分)

## - 6 . 第 3 8 回講演会

### (1) 内容

青少年健全育成事業の一環として毎年講演会を実施しています。本年度は講師に明治大学文学部教授の齋藤孝氏を迎え、「人間関係を作るコミュニケーション力」と題して開催しました。講演の案内は広島県及び広島市の教育委員会や教育機関へ行い、またホームページ・新聞等を通じて広く聴講希望者を募りました。

当日は、小中高生の方から幅広い年代の1,350名のお客様にご来場いただきました。齋藤氏は舞台上を動かれながら、身振り手振りやユーモアも交え、言葉の大切さを熱く語られました。「知識と経験は誰にも奪われることはありません。」「本は人格です。」と印象的なフレーズで、聞く人をどんどん引き込んでいかれました。聴講された皆様からは、「本で先人の話を聞きたい、本を読むことにします。」「コミュニケーション力が3割増になった気分です。」等の感想をいただきました。

講 師： 齋藤 孝氏（明治大学文学部教授）  
演 題： 人間関係を作るコミュニケーション力  
開 催 日： 2020年1月13日(月)  
開催場所： 広島国際会議場 フェニックスホール  
聴講者数： 1,350名

## - 6 . 大学寄付講義の実施概要

マツダ財団の寄付講義は、1995 年に開始しました。社会人として必要な視点・能力の醸成に寄与すべく、実際の社会の仕組みを理解するとともに、現在の日本の課題、世界の課題を社会科学的視点によりとらえ、これから必要とされる「柔らかい社会（社会の不足部分を人と人との支えあいで補う）」での生活者、社会人としての役割やビジョンについて、次世代を担う学生と共に考える「双方向」の講義を目指しています。

### (1) 「ボランティア活動」開講の経緯

マツダ財団では、1998 年より、当時の(財)広島市ひと・まちネットワーク（現、(公財)広島市文化財団）と共催で、「感動塾・みちくさ」を開催しています。これは、小学生に創意工夫させ、感動を体験してもらう合宿事業で、このような事業の実施には、プログラムの円滑な推進と子どもたちの活動を手助けするためのボランティアによる支援が欠かせません。加えて、特に大学生などの若い世代において、社会の仕組みを理解し、柔らかい社会を担っていけるような人材を育成したいとの強い思いもあり、本講義「ボランティア活動」が生まれました。

2000 年度からは、(一社)教育ネットワーク中国のお力添えを賜り、「単位互換科目」として、2 年ごとに開講大学を替えながら、広く県内の大学生に受講していただいています。

### (2) 本講義の目標と特色

本講義は、集中講義とボランティア実習を組み合わせた構成としています。まず、集中講義でボランティア活動に必要な基本的知識や方法を学び、その後、実際にボランティア活動を実践することで、活かした知識・方法を身に付け、自ら感動を体験してもらいたいと考えています。

### (3) 講義の概要

#### 集中講義

日時 : 2019年5月18日(土)、25日(土)、9:00~16:10 (4コマ×2日間)

場所 : 広島女学院大学(広島県広島市東区牛田東4-13-1)ソフィア2号館2階202教室

講師所属機関 : ・ひろしま市民活動ネットワークHEART to HEART、・NPO法人IMAGINUS、

・比治山大学、・NPO法人ほしはら山のがっこう、・NPO法人これからの学びネットワーク

#### ボランティア実習

各自でボランティア実習先を探し、夏休みなどを利用して実施

<実習の条件>

- ・ 期間は6/1~8/31の間。
- ・ 実働30時間以上、あるいは2泊3日以上であること。
- ・ 小・中学生とのふれあいのあるボランティア活動。

#### レポート課題

2019年9月17日までに、レポート(活動参加報告書)とボランティア参加「証明書」を、マツダ財団へ電子メールで提出。

#### 実績

38名が11か所の事業所や施設でボランティアを実施。

## ・管理事項の概要

### ・役員等に関する事項

#### 1. 2020年3月31日現在の役員・評議員の名簿

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
理 事 長	代表理事	非常勤	小 飼 雅 道	マツダ株式会社 代表取締役会長
専務理事	代表理事	非常勤	吉 原 誠	マツダ株式会社 常務執行役員
常務理事	業務執行理事	常 勤	山 内 真	公益財団法人マツダ財団 事務局長
理 事		非常勤	上 田 宗 岡	上田宗箇流 家元
理 事		非常勤	大 下 浄 治	広島大学大学院工学研究科教授
理 事		非常勤	岡 島 鉄 也	株式会社中国新聞社 代表取締役社長
理 事		非常勤	平 谷 優 子	弁護士
理 事		非常勤	山 地 正 宏	公益財団法人広島市文化財団 常務理事
理 事		非常勤	山根 八洲男	広島大学名誉教授

(五十音順・敬称略)

監 事		非常勤	高 橋 義 則	公認会計士
監 事		非常勤	前 田 真 二	マツダ株式会社 財務本部本部長

(五十音順・敬称略)

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
評 議 員		非常勤	安 藤 周 治	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター 代表理事
評 議 員		非常勤	石 川 文 雄	公益財団法人中国電力技術研究財団 専務理事
評 議 員		非常勤	大 杉 節	広島大学 名誉任教授
評 議 員		非常勤	越 智 光 夫	広島大学長
評 議 員		非常勤	佐 藤 次 郎	一般財団法人日本語教育振興協会 理事長
評 議 員		非常勤	菅 田 淳	広島大学大学院工学研究科長、工学部長
評 議 員		非常勤	竹 林 守	マツダ株式会社 名誉相談役
評 議 員		非常勤	堤 宏 守	山口大学工学部長、大学院創成科学研究科長
評 議 員		非常勤	中 村 健 一	県立広島大学長
評 議 員		非常勤	長 尾 ひろみ	公益財団法人広島県男女共同参画財団 理事長
評 議 員		非常勤	農 沢 隆 秀	元マツダ株式会社 技術研究所 技監
評 議 員		非常勤	吉 田 総 仁	広島大学 名誉教授
評 議 員		非常勤	渡 辺 一 秀	マツダ株式会社 相談役

(五十音順・敬称略)

#### 2. 役員等の異動状況

- ・香川 寛治氏は2019年6月20日に理事を辞任し、山地 正宏氏が2019年6月20日に理事に就任した。
- ・岡谷 義則氏は2019年6月20日に理事を退任し、岡島 鉄也氏が2019年6月20日に理事に就任した。
- ・河原 能久氏は2019年6月20日に評議員を辞任し、菅田 淳氏が2019年6月20日に評議員に就任した。
- ・高橋 超氏は2019年10月11日に理事を辞任し、大下 浄治氏が2019年10月11日に理事に就任した。
- ・小柴 是睦氏は2019年10月11日に評議員を辞任し、石川 文雄氏が2019年10月11日に評議員に就任した。

## ・職員に関する事項

役職名	名 前	主たる担当職務
事務局 長	山内 真	・事務局統括
事務局長代理	井上 紀文	・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・事業計画・収支予算の策定及び財務・会計に関する事項 ・大学講義開講に関する事項
事務局長代理	横山 孝	・理事会、評議員会等の運営に関する事項 ・広報等に関する事項
事務局	六鹿 彰吾	・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・財団の普及・啓発に関する事業計画の策定及びその実施に関する事項
事務局	浅原 真実	・財務・会計に関する事項 ・講演会開催に関する事項

## ・理事会・評議員会等、主な活動事項

### (理事会)

会議名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第37回理事会	2019年6月6日	第1号議案 平成30(2018)年度事業報告及び決算承認の件 第2号議案 理事候補8名推薦の件 第3号議案 第14回評議員会招集に関する件 [報告事項] 1)2019年度科学技術振興関係事業助成の件 2)職務執行の状況	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第38回理事会	2019年6月20日	第1号議案 代表理事選定の件 第2号議案 理事長及び専務理事選定の件 [報告事項] 公益法人の事業報告書等の提出書類	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第39回理事会 (決議の省略)	2019年9月24日	第1号議案 第35回(2019年度)科学技術振興及び青少年健全育成研究助成対象決定の件 第2号議案 第36回(2020年度)青少年健全育成市民活動支援計画決定の件 第3号議案 理事候補1名推薦の件 第4号議案 第15回評議員会招集に関する件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第40回理事会	2020年3月16日	第1号議案 2020年度事業計画及び収支予算承認の件 第2号議案 第36回(2020年度)市民活動支援対象(青少年健全育成関係)承認の件 第3号議案 選考委員1名選出の件 [報告事項] 1)職務執行の状況	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決

### (評議員会)

会議名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第14回評議員会	2019年6月20日	第1号議案 2018年度決算承認の件 第2号議案 理事8名選任の件 第3号議案 評議員1名選任の件 [報告事項] 1)2018年度事業報告の件 2)2019年度事業計画及び収支予算の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第15回評議員会 (決議の省略)	2019年10月11日	第1号議案 理事1名選任の件 第2号議案 評議員1名選任の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決



(当年度の主な活動 - 上記会議以外)

活動項目	実施年月日	概要
第35回マツダ事業助成候補の募集	2019.4~5	科学技術振興関係
第35回マツダ研究助成候補の募集	2019.4~5	科学技術振興関係
第35回(2019年度)青少年健全育成市民活動支援 贈呈書の贈呈	2019.4~6 2019.4.16、4.23	青少年健全育成関係 助成30団体に対し、贈呈書を贈呈
科学わくわくプロジェクト「サイエンスレクチャー」開催	2020.2.20	広島大学等との連携事業
科学わくわくプロジェクト「ジュニア科学塾」開催	2019.8.8、8.9、8.10、 12.14	広島大学等との連携事業
科学わくわくプロジェクト「小学校理科ひろば」 大学講義(広島女学院大学)	2019.5.18、5.25 通年	授業実践講座または模擬授業 「ボランティア論」(広島県内単位互換科目)
2019年度選考委員会(科学技術振興関係)	2019.8.2、3	第35回マツダ研究助成対象の審議・選出
2019年度第2回選考委員会(青少年健全育成関係)	2019.7.25	第35回マツダ研究助成対象の審議・選出
「感動塾・みちくさ」実施	2019.8.19~8.21、 8.20~8.22、8.23~8.25	(公財)広島市文化財団と共催
第35回マツダ研究助成贈呈書の贈呈	2019.10~11	助成対象者に対し、贈呈書を贈呈
第36回(2019年度)青少年健全育成市民活動支援候補 の募集	2019.10~2020.1	広島県、広島市及び山口県の青少年健全 育成主管部門等を通じて告知
第38回講演会	2020.1.13	講師：斎藤 孝氏、演題：「人間関係を作る コミュニケーション力」
2020年度第1回選考委員会(青少年健全育成関係)	2020.2.12	第36回市民活動支援対象の審議・選出

・所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項

宛先	申請等年月日	申請事項等
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	2019年6月25日	事業報告等の提出
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	2019年7月17日	理事及び評議員変更の届出
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	2019年10月28日	理事及び評議員変更の届出
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	2020年3月26日	事業計画書等の提出

・登記に関する事項

登記先	登記年月日	登記事項
広島法務局	2019年 7月2日	理事及び評議員の変更登記 ・2019年6月20日 岡谷 義則氏 理事を退任 ・2019年6月20日 香川 寛治氏 理事を辞任 ・2019年6月20日 下記2氏 理事に就任 岡島鉄也、山地正宏 ・2019年6月20日 河原 能久氏 評議員を辞任 ・2019年6月20日 菅田 淳氏 評議員に就任
広島法務局	2019年 10月15日	理事及び評議員の変更登記 ・2019年10月11日 高橋 超氏 理事を辞任 ・2019年10月11日 大下 浄治氏 理事に就任 ・2019年10月11日 小柴 是睦氏 評議員を辞任 ・2019年10月11日 石川 文雄氏 評議員に就任

・附属明細書

2019年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項にて規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。